

soda ▶ chia ▶ i

grow each other

Lead【ニュース】

■ たいむ餅つき ■ 1月20日(土) 11:00 - 15:00

毎年恒例のたいむの餅つきは、小学生の子どもたちも楽しみにしている大きな行事の一つです。しかし、当日は朝から雨が降り、生憎の天気となってしまいましたが、餅つきが始まる頃には雨は止み、無事に行うことができました。

もち米を蒸したり、臼や杵などを準備したりしていると、楽しみにしていた幼稚園児たちから「おもち、まだできないの？」と質問がありました。「こうやってたくさん準備をして、みんなで餅つきをすると美味しいお餅ができるんだよ」と話すと、早くから来ていた子どもたちは興味深く準備の様子を見入ったり、時には自分ができることを手伝ったりもしていました。

餅つきの最初の工程は、蒸し上がったもち米を臼に移し、それを杵で力強く潰していきます。そうすることで、徐々に米粒が粘りをもつので餅がつきやすくなるのですが、蒸し時間と同じくこの工程はとても重要で、つきあがりの餅の食感も変わってくるのです。こういったことをスタッフが話すと、特に大人が興味をもったようでした。



小さな身体で杵(子ども用)を持ち、大人と一緒に一生懸命もち米を潰す・餅をつくといった姿が微笑ましかったです。小さな年齢の子は大人と一緒に杵を持って行いますが、初めての体験に不安を感じる子、積極的な子と様々でした。毎年、どの子も最初は杵の持ち方や餅のつき方にぎこちなさが見られるのですが、大人の様子を観察しつつ何度も自分で挑戦してみることで、餅つきの達人のように変化していきます。また、経験豊富な小学生の子どもたちも小さな子の手本になっているようで、子どもたちなりにいろいろな方法でコツを掴み始めると、短時間でもとても上達していました。

つき上がった餅は、お母さんと子どもが主になり、餅とり粉を付けて食べやすい大きさに丸めていきました。子どもたちが「やってみたい」と意欲的に行い、近くの大人が手を貸しながら賑やかに進んでいました。スタートアップ・カレッジ(入学前教育)とオープンキャンパスに参加していた高校生も参加し、餅つき体験や餅を丸める工程などを見学し、一緒に餅を食べると「つきたてのお餅って美味しいね」と話していました。お母さん方も高校生と話をする場面があり、緊張した表情も少し和らいたように感じました。

「餅をどのような味付けで食べるか」というのも、ここ何年かの楽しみになっています。醤油・きな粉・あんこ定番のものから、各家庭から持ち寄った調味料(食べるラー油など)がたくさん集まりました。スタッフ手作りの雑煮は「出汁が効いていて美味しい」とのことで、今年も人気の味でした。また、今年は「デザートもいいよね」との声から、アイスクリームやジャム、

チョコシロップといった物も登場し、年々この餅つきの楽しみ方にも変化が見られました。

現代では、臼と杵を使って餅をつくこと自体あまり機会はないかと思います。臼と杵を使った餅つきを行うことで連帯感が高まり、達成感や食に対する喜びをみんなで共有することができるのではないのでしょうか。行事のねらいとして、コミュニケーションの場になると同時に、大人自身も楽しみながら行う姿を子どもたちが見ることで、自然に次世代へと伝統文化が受け継がれていくのではと思います。



Episode【事例】

■ 子育てセンター実践交流セミナーに参加して ■ 1月25日(木)・26日(金) 大妻女子大学にて

今回このセミナーに参加するにあたり、たいむの日々の様子や実践報告をまとめていきました。その際に、たいむの実践的かつ活動的なもの(特に学生企画や季節の行事)には、会員への魅力付けやスタッフの意識を向けやすいが、【たいむ】という空間自体に魅力は感じられているのか? という疑問を抱きました。同時に、スタッフの在り方を再度振り返るきっかけにもなりました。

2日間のセミナーでは、各都道府県の子育て支援センター職員と実践報告や意見交換・ディスカッションを行い、たくさんの方々の現場の声を聞いてきました。参加された方々の大半が保育園内にある子育て支援センターの職員でしたが、学内ひろばのスタッフとしても共感できる部分・疑問に思う部分などあり、知識を深める良い機会になりました。また、地域差も関係してきますが、スタッフそれぞれの価値観や思い・日々抱える悩みなど受け入れ、共感し合うことで、みんなで気持ちを高めることもできました。

終了後には、スタッフとしての自分はただ漠然と日々を過ごしてきたのではないかと痛感しました。上記にある疑問もそうですが、今まで気にも留めなかった些細なことにも疑問をもつことはとても重要ではないかと感じ、『いつでも帰って来られるみんなの居場所』を創るにはどのように行動し、実践していくべきなのかと考えました。「スタッフだけの一方的な思いはないか」「スタッフと会員との心地よい適度な距離感とはなにか」「保護者目線のたいむの存在意義とは」など、運営委員の保護者をはじめ、すべての保護者と話をすることも必要だと思います。そして、スタッフ間の視点や意見交換の内容にも重きを置き、自己評価をしながら意識改善に努めることで、より良い人的・物的環境が整えられていくと思うので、早速行動に移していきます。(本田)

■ 子育て支援とは ■

研修に2日間参加して実践報告や新しい保育指針について学んできました。

乳児から2歳児未満までは、周囲の人や自然など様々な関わりを初めて持ち、その中で自我が形成されるなど子どもの心身の発達にとって極めて重要で、自尊心や自己制御、忍耐力といった非認知的能力を乳幼児期に身につける事も大切な時期とされています。子どもは色々な場面で学び、経験を積んでいます。子どもの働きかけを周囲や保護者に受け止めてもらう事で成長へと繋がっている重要性を改めて感じました。

その中で印象に残っているのが、子どもが上手く一人でご飯を食べられない。親は不安に思い悩み、どうすれば一人で食べられるようになるのかと考える。親子は互いに試行錯誤しながら食べられるようになった喜びを共有し、しばらくすると「食べさせて」と自分で食べようとしな。こんな場面を一度は経験した事があるのではないのでしょうか。

親の想いは伝わりやすいもので、「不安になったらいつでも戻っておいで」「大丈夫だよ」と、子どもの気持ちをと受け止めていく事で意外と上手く解決するものですよという言葉でした。

子育てを取りまく環境は時代と共に大きく変わり情報は拡散し、子育てしづらい環境におかれている保護者の方も多いのが実状です。子育て支援に求められているものも家庭や環境によっても様々で正解は一つではないと感じています。スタッフは、専門性を学びつつ利用者さんと話をする中で少しずつ信頼関係を築き、時に寄り添い、共に創り、支え個々にとって居心地の良い居場所づくりを心掛けて行きたいと思っています。(村上)

Report 【報告】

◇ 正月を祝おう！ ◇ 1月9日(火)

休み明けに、たいむでも無病息災を願うため『七草粥』ならぬ三草粥(かぶ等)を食べました。

餅入り粥・餅なし粥の2種類と、味付け用に“ゆず塩”“カレー塩”“抹茶”“梅塩”“岩塩”“刻んだゆずの皮”を用意したことで、「いろいろな味を試してみたい」と大人に好評でした。大人が食べる様子を見て、少しだけ味見をする子・おかわりをする子と、子どもたちにとってもちょっとした食体験になったようです。



◇ うたとおはなしのひろば (2年生) ◇ 1月16日(火)・30日(火) 13:00-13:30



短大教員、池谷先生のゼミ生による『うたとおはなしのひろば』で、わらべうたや素材(花紙)遊びをしました。

授業で勉強した遊びを取り入れ、花紙を使い“ちぎる・やぶく・丸める”などといった指先あそびから、息でふっと紙を飛ばしたり、ちぎった紙を内輪で扇いで思いきり吹き飛ばしてみたり、とても盛り上がりました。子どもだけではなく、特に内輪で思いきり扇いだ時の大人の必死さに大人同士で笑い合うこともあり、楽しい時間でした。

昨年の5月から始まった今年度の『うたとおはなしのひろば』でしたが、30日(火)で最後の回となりました。初回の時には緊張して戸惑った表情や仕草の彼女たちでしたが、最後の今回は学生自身がしっかりと自信をもって行き、親子と一緒にたっぷり楽しむ姿が印象的でした。年間を通して子どもはもちろん、学生たちの成長も見られました。

◇ リズム室あそび ◇ 1月18日(木) 10:00-12:00

短大の授業で使うホールを使い、巧技台や滑り台などの大型遊具で遊ぶ時間を設けています。

巧技台とそれに接続する平均台の高さや全体的な遊具の配置を少しずつ変化させ、各年齢・月齢の発達に沿ったものを取り入れることで、子どもたちが興味をもちのびのびと遊んでいます。

リズム室あそびの回数を重ねていくうちに、同年齢(主に3歳)の子ども同士



のかかわりも大分見られるようになってきています。他者とのかかわりを通して、自分の気持ちを言葉や態度で表す子どもたち。成長過程の一つとして、フープ(好みの色)やボールの取り合いをしたり、遊具の順番待ちをしたりする姿があります。どんなに小さな子どもでも、互いの気持ちをぶつけ合うことは大事なことだと思いますので、そういった子ども同士のやりとりにもすぐに大人が止めに入ることはせず、温かく見守っています。普段のたいむの室内とは違う開放された場所で思いきり身体を動かして遊ぶことは、思いの外、大人自身が子どもたちの様々な思いにゆったりと寄り添える時間になっているようです。

ジャパンミートおゆみ野店の「1%クラブ」

平成29年12月1日(金)～平成30年2月28日(水)まで、ジャパンミートおゆみ野店が行う「地元のクラブを応援する」“CSR企画(企業による社会貢献事業)”に選定されています。

この事業は、レシートの裏面に「育ちあいのひろば たいむ」と書き投票していただくと、入れていただいたレシートの合計額の1%を育ちあいのひろばたいむに寄付していただける企画です。もし寄付をいただけたら、子どもの玩具や環境整備に役立てたいと思っています。

みなさんぜひ、ジャパンミートでお買い物をしていただき、レシートを投票していただけると幸いです！！！！



◇ 第9回 たいむを育てる会(運営委員会) 議事録 ◇ 1月19日(金)12:30～13:20

1. 2・3月の行事予定

- ・節分について ➡ 石井ゼミ企画と合同で行うことを検討しているため、1月末に行う予定(詳細は後日)
- ・2年生への感謝を込めて「ありがとうの会」を企画してはどうか(保護者より) ➡ 内容について検討
- ・ひなまつりに向けて、ひな製作を行う

【スタッフより】

- ・折り紙ひな人形の作品
- ・子どもの手・足型をとった作品(昨年と同様) 2種類で行う

2. その他

- ・H30年度の運営委員の募集についての提案 ➡ 要検討(スタッフ間でも今年度を振り返り、話し合う)

次回は、2月22日(木)を予定 ・2、3月の行事予定など

*たいむでは、本来、利用者と一緒に創る広場を目指しています。

今年度より、利用者の視点をさらに入れていきたいという想いと、広場の内容をもっと利用者に見えやすくするために、「たいむを育てる会(運営会議)」を開催しています。

(運営委員は、2月から募集をかけ、立候補してくださった6名の利用者の方です)

* 石井ゼミが2名参加。

会議での保護者とスタッフの意見交換の様子など、個々にメモを取っています。どのような雰囲気、どのような意図があって企画を立てているのかなど、子育て中のお母さん方の生の声や現状を知れる良い機会でもあります。


◆ 節分の豆まきをしよう! ◆

邪気をはらい、歳の数々の豆を食べて1年の無事をみんなで祈りましょう。こわい鬼は登場するのでしょうか…?!



【日 時】 2月2日(金)

【場 所】 たいむ

【時 間】 10:45・14:30 に  が来るかも!!



◆ 2年生ありがとうの会 ◆ ※お母さん企画! ママだけの参加もOKです!!

食欲旺盛な学生への感謝の気持ちを伝えたいと企画した会です。一緒に食べて、会話をして思い出にひたりませんか?

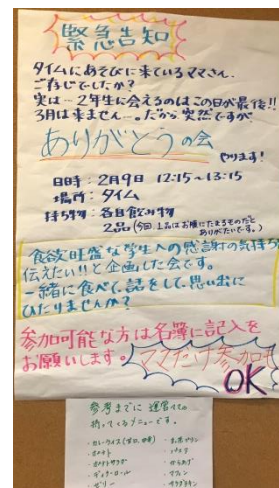
各自で持ち寄った食べ物を並べて、ビュッフェスタイルの食事になります。

【日 時】 2月9日(金) 12:15~13:15

【場 所】 短大 サロン(調理室) ※たいむにて受付をしてから移動

【持ち物】 食事2品(デザート・お菓子など含む)

飲みもの



◆ リズム室であそぼう! ◆

巧技台や滑り台など、大型遊具で思いきり遊びませんか?



【日 時】 2月8日(木)・27日(火) 10:00~12:00

【場 所】 短期大学2号館 リズム室

【参加費】 一日会員:100円(保険料)

※ たいむが初めての方も大歓迎です!

【持ち物】 着替え・タオル・飲み物など

◆ ひな製作をしよう! ◆

たいむでオリジナルのお雛様を作りませんか?

【日 時】 2月13日(火)~2月28日(水) 10:00~16:00

【場 所】 たいむ室内



◆ ノーカーデーについて (🚗マークの日) ◆ 東門:附属幼稚園の駐車場

幼稚園行事のため、なるべく公共交通機関での来室にご協力いただくと助かります。

2月21日(水) …新入園児を対象に、こども園についての説明会があります。当日は駐車場の混雑が見込まれますので、在園児の方も降園後のノーカーデーにご協力ください。